

「第6回みやざき活性化フォーラム」結果概要

日 時：令和5年12月19日（火）14：00～16：30

場 所：ホテルメリージュ3階「鳳凰」

テーマ：「中小企業におけるDXの現状と課題」

1. 挨拶 宮崎財務事務所長 夏井 正信



2. 講演 14：05～14：20

「九州企業のDXの現状と政策動向」

九州経済産業局デジタル経済室長 春口 浩子 氏



3. 講演 14:20~14:30

「中小企業のDXの現状と県のデジタル化推進の取組について」

宮崎県総合政策部産業政策課長 守部 丈博 氏



4. 講演 14:30~14:40

「宮崎銀行におけるDXの取組について」

株式会社宮崎銀行経営企画部デジタル戦略室長 神田 稔久 氏



5. 講演 14:50~15:30

「中小企業のDX推進事例ーデジタル技術を使ったビジネスモデル変革へー」

株式会社DX経済研究所 代表取締役 中尾 克代 氏



6. 講演 15:30~16:00

「ヒサノのDX戦略と新規事業への進出ー経営者の自己変革の必要性ー」

株式会社ヒサノ 代表取締役社長 久保 誠 氏



7. 意見交換 16:00~16:30



○ フォーラム構成員からの主な質疑

Q. DXを推進する過程で「個別最適」(担当別・部分的なIT導入)を「全体最適」(会社全体のIT利活用)にするステップであきらめてしまう経営者が多いと思うが、そのステップを達成するためにはどうしたらよいか。

→ (登壇者)

・経営者が個別最適を全体最適にする際には社内に抵抗勢力が現れることが多い。

実際に現場をしっかりと見ると、新規導入したシステムを利用していなかったりすることもあるので、現場の従業員にメリットになるような説明・工夫が必要。

経営者と現場の思いも違うので、第三者である支援者が仲介するといった工夫がないと難しい。DX推進には支援者の伴走支援が非常に重要であり、伴走支援を国、県、商工会議所などが経営革新と経営機関を含めて支援したほうが普及率は上がると考えている。

Q. DX認定制度について、本日の説明を聞くまで知らなかったが、DX認定を受けるメリットについて理解することができた。今後、DX認定制度の認知度を高めるために、経済産業局として、どのように周知し取り組んでいくのか。

→ (登壇者1)

・DX認定制度の認知度及び普及ともに、まだまだ進んでいないと実感している。本省とも連携し周知していく必要があると認識。一方で、今はまだ希少性があるので、今のうちに取得してもらい、企業のアピールポイントとして、人材獲得等につなげてもらうと、より一層よいのではないかと考えている。

→ (登壇者2)

・経済産業省が示しているデジタルガバナンスコードを見ていただくとわかるが、国がこれを推進する手本と記載されており、中小企業や農業者の生産性・利益の向上を解決するツールとしては、非常に優れていると思っている。DX化の手順として非常によくできていると思っているので、本フォーラムといった機会を通じて周知していきたい。

Q. 実際にDX化に取り組む際に、社内でどういった変革があつて成功したのか。

→ (登壇者)

・経営者が主体性を持ってやることが重要であり、経営者にやる気が無かったら未来永劫うまくいくことはないと思っている。実現するにはお金が必要であり、補助金を活用するのか金融機関からお金を借りるのかなど、経営者が判断しないことには進まないと考える。

さらに感じたことは、社員が真面目だったということと、ITコーディネータといった伴走支援者がいたことが大きかったと感じている。

Q. DX化がなかなか進まない企業の特徴的な事例はあるか。

→（登壇者）

・明確な理由は分からないのが実情。ただし、経営者と従業員の意識や知識に相当な乖離があると社内の変革は難しいのではないかと。

（登壇者感想）

・率直な感想として、宮崎県の取り組みは素晴らしいと思っている。特に、3階層別（経営・マネジメント層向け、デジタルリーダー層向け、一般従業員層向け）に分けてリスクリングアカデミーを実施しているところであり、その他、補助金等も非常に手厚いものがあるので、ぜひ県内企業に利用することをお勧めしたい。